

県立高校未来創造ビジョン意見交換会（西学区）における主な意見

テーマ①県立高校が取り組む教育の重点

全ての生徒の可能性を引き出す教育

- 教育活動の中心である授業を充実させ、生徒が満足感を得られるような学校を目指してほしい。
- 保護者視点からは、生徒の進路志望が実現できる学校であってほしい。
- 高校は子供が将来を思い描くきっかけを与える場であってほしい。きっかけが多くなっている一方で、高校生は様々なことに取り組んでおり、またかつては大学で求められていたような専門的なものが高校段階に求められるようになり、忙しそうに見える。生徒の負担やバランスに配慮をお願いしたい。
- 探究学習を充実させ、生徒が多様な人と関わりながら興味のあることに専念できる環境づくりをするために、教員にある程度余裕ができるような配置が望ましい。
- 10年度にこうなっていきたいという視点として、自分の得意なことや興味のある分野を伸ばせる学校や環境が魅力的で、求められるのではないかと思います。

地域を支える人づくり

- ビジョンは人口減少を前提につくられており、地元にある多様な産業との連携も大切にしながら進めていただけるとありがたい。
- 各高校では地域と連携した活動を行っていただいている。商品化やイベント集客などの体験が生徒の達成感や地元貢献意識、将来の地域定着への意欲に繋がっている。
- 小さい頃から漁師など特定の職業を目指す子供のニーズに応えるため、専門的な学びの場をこれからも維持していただきたい。老朽化した施設の整備や情報発信にも取り組んでいただければありがたい。
- 高校だけでなく中学校でも地域協働コーディネーターが配置できれば、一層地域との学びが広がっていくと思う。
- ビジョンの重点2の「地域を支える人づくり」は少子化において重要な観点である。
- 地域コミュニティとして学校が果たす役割は大きい。住民のみならず、企業や大学、高校も含めて、一体となったWin-Winの関係を目指したい。高校生の探究活動にも協力したいと考えており、ゆくゆくは地域への愛着や地元への回帰につながってほしい。
- 遊佐高校の活性化が町の活性化につながると考えており、予算を確保して支援を行っている。県からも支援あればありがたい。
- 4つの学科があり、他学科の内容に興味を持って資格を取得して就職した例もあり、同じ環境に多様な学科があることは進路を広げられる強みになる。
- 生徒は最初のうちは県外志向が強い。地元にある優れた企業と連携する機会を増やし、地元定着につなげたい。

新しい時代への対応

- 海外でデジタル教科書から紙の教科書に戻したニュースもあった。学びにおける紙の活用も重要だと考える。
- 学校でAI学習教材を使っている。スライド作成や発表への活用ができるメリットがある一方で、書く機会が減ることや予測変換を使うことで、書く力が弱くなっているのではないかと感じることもある。状況によって見直しを図ることも必要ではないか。
- 求められる学力が変化してきており、今後はAIを活用した学びについても考えていくことが必要である。一方で、学習の本質には普遍的な部分もあることを生徒には伝えたい。

- 学校が小規模になっていく中で、学科や学年の枠を超えた学びに加え、学校の枠を超えた学びも面白い。Chromebook を活用して他校の生徒と意見交換を行うことで、新しい考え方や知識が生まれることもあると思う。

魅力ある学校づくり

- 私立高校の授業料無償化により県立高校との経済的差がなくなる中、私立の充実した設備やスクールバス、手厚いPR活動に魅力を感じる親が増えている。公立は学習面や進路指導で充実していることはわかっているが、交通の便で断念する理由にもなっている。
- 子供はスマートフォンやSNSで情報を得るため、パンフレットよりも動画を活用した親しみやすい発信を強化してほしい。
- 町に唯一所在する高校として町からの手厚い支援をいただいている。町営バスの低額利用によって駅と学校間の交通手段が確保されていることも、メリットとしてPRしていきたい。
- 学校施設の一部老朽化が目立ち、イメージダウンの懸念がある。
- 多様な特性を持った生徒を受け入れている状況を踏まえ、標準法の教員数に加えた人員の配置をお願いしたい。
- 町に高校がなく、高校選択には交通手段が大きい要因となる。私立高校はスクールバス送迎に加え、特色ある取組を打ち出して生徒や保護者を引き付けている。
- 県立高校は、各校のPRに加え、県全体として特色ある教育を打ち出すことが必要ではないか。県外生の受入れに当たっては、教育界に加えて産業部の協力も得ながら、分野を絞った教育を展開し、「ここに来ればこれが学べる」という特色につなげる考えもある。
- 部活動も生徒にとって大きな要因である。近年、部活動のために県外に進学する生徒も増えている。
- 特別な支援が必要な生徒も増えている。人員を配置して厳しい現場の先生方へのサポートをお願いしたい。
- 特別な支援を要する生徒が増え、中高の連携も図りながら、高校教員の専門性向上や体制構築も必要と感じる。
- 中学校段階では産業高校を選ぶ判断がつかないという声も聴いている。本校では小学生向けにも学校見学を行っており、とても反応が良い。早い段階で色々な高校の学びについて理解してもらう機会を作ることも必要である。

テーマ②県立高校の在り方に関する基本的な方向性

課程・学科の配置、学校・学科の特色化に向けた方向性

- 今年度より、鶴岡市の支援のもと「地域みらい留学」に参画し、県外からの生徒募集をさらに推進している。しかし、県外生徒を受け入れる下宿等が不足しており、受入れ拡大の大きな障壁となっている。現在、鶴岡市や地元振興会等とともに解決策を模索しているが、県からの支援についても検討をお願いしたい。
- 県外生の受入れにも支援を行っている。卒業後に県内大学に進学する生徒も出てきた。

県立高校の配置に関する各地区の方向性

- 田川地区は多様な学科が設置されており、生徒の希望によって選択できる高校配置になっている。今回のビジョンに学級削減目標数が明記されていないのは、学級減だけでは生徒減のペースに対応しきれないためと理解している。中学校卒業者数の急激な減少という現実があるが、現在ある特色ある教育の継続・発展、そして地域振興の視点を持った再編整備が不可欠である。また、当地区には、鶴岡工業をはじめ老朽化が進む校舎も多く、再編整備の議論とともに、校舎改築についても一体的に検討する必要がある。

- 校舎制については、その目的や校舎利用、教員・生徒の移動、教員配置、管理・運営等、検討すべき事項が多々ある。約 10 年前に校舎制を導入した岩手県の事例におけるメリット・デメリットを詳細に調査・研究し、慎重に検討してほしい。
- 10 年後は小規模化がより進む傾向にあるが、統合することで元の学校の特色や魅力が弱まる恐れもある。バランスの取れた再編を考えていただきたい。
- 飽海地区は全体的に定員割れの状態が続いている。ビジョンで在り方の基本的な方向性や学級減の基準は示されているものの、飽海地区を早めに統合していくようなことはあるか。
(回答) ビジョンでは全体の学級削減目標を定めていない。各地域の実情が異なるため、これから学区ごとに検討していく。
- 各市町村でも小中学校でも統合の話が進んでいる。高校も学級数減による教員配置の難しさがあり、スピード感を持って再編を進める必要があるという印象を持っている。

テーマ③その他

ビジョン全体について

- 探究学習など新しい取組が増える中で生徒も先生も多忙化している。何かを足すのであれば既存のものをやめる決断や、選択科目による学びの重点化も必要ではないか。

高校入選について

- 高校も大学も進路が早く決まることにはメリットもあるが、合格後の学びのモチベーションの維持も課題である。
- 新しい高校入選制度で、公私の進学者割合に変化は見られなかった。私立高校の取組としての早期勧誘や公共交通機関が廃止になった地域等へのスクールバス運行などは、学校選択への影響は大きい。1 月末に進路が内定した生徒が多くなり、その後の学びに対する意欲づけが必要である。

交通事情について

- 交通事情は避けては通れない問題である。同じ町内の小中高でも連携を取りたいが、予算の面で難しく広がりが限定的である。
- 子供たちの交通手段は、行政が整えていく必要があると感じた。小中学校の統合ビジョンもこれから検討するが、例えばスクールバスに高校生や地域住民を混乗させるといったアイデアも、県と連携して考えていきたい。

その他

- 以前と比べて学校が外部に開かれていると感じる。